

我満さん 「旭日単光章」受章 おめでとうございます!!

まほろばだより
No.4355 16-131 9/2



山と森と木と・・・

この度、盤溪の我満嘉明氏が、平成28年度春の受勲で、長く道森連監事並びに札幌市森林組合長を務められた功績により、「旭日単光章」を受賞されました。

林業振興功労では、日本で唯一人でした。

我満さんは、幼き日々から、晩年に至る今日まで、さまざまな形で木々と関わって来ました。



●旭日単光章受章祝賀会にて
我慢ご夫妻



●旭日単光章と賞状

自前の家は勿論のこと、カラマツ材と木炭で居酒屋チェーンの先駆けとなり、カラマツ材だけで盤溪スキー場の大ロッジを造り、丸太小屋で水産残滓活用処理施設も造るなど、木材利用の開拓者であります。

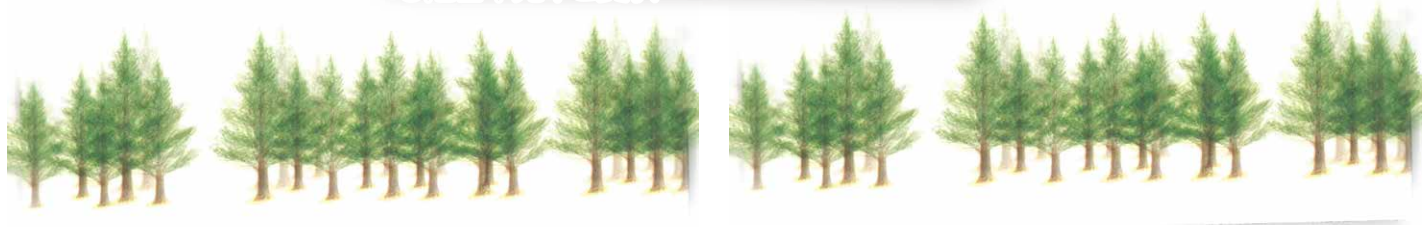
さらに、自然との関わりは、堆肥造り、学校・幼稚園造り、エゾシカ活用、あらゆる産業教育文化にまで及び、まさに北海道が生んだスーパーマンであります。

人と企業の10年先、20年先を見据えて事を起こす先見の明、チャレンジ精神、フロンティア魂は、後裔の我々の範とすべきところです。

これからも長くご指導賜りたく、ここに、常日頃お世話になっているまほろばとして、皆様と共に、お祝い申し上げたいと思います。

おめでとうございます!!

まほろば主人 宮下 周平

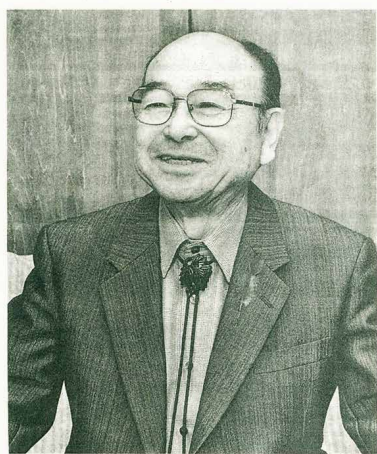


●旭日単光章受章
祝賀会にて

旭日単光章

林業振興功労

札幌市森林組合代表理事組合長
がまん よしあき
我満 嘉明さん(77)＝札幌市中央区

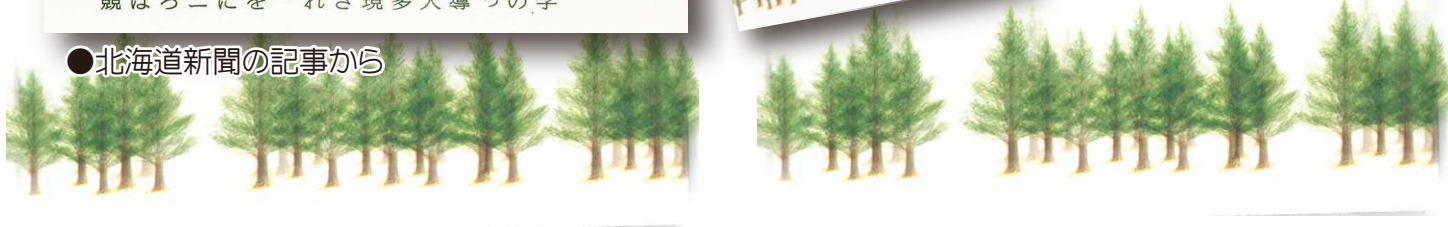


1977年から札幌市森林組合の役員を歴任し、9年前に組合長に就任。約40年にわたり地域の森を守る活動が続けてきた。「受章したからには責任を持つて小学生に森で間伐材を使つたキノコの育成などを指導する。背景には地主が多大な維持費に耐えきれず、多くの森が放置されている現状がある。「森が大切にされ、森の持ち主も感謝される社会にしたい」と願う。自身も道内に10畝の森を所有し、時々まきを切りに山に入る。「軽いけどヤニが出るなど、木材にもいろいろな個性があるが、森では平等。見ていると人間の競争社会を忘れられます」

地域の森守り次世代へ

木や森に親しみながら学ぶ「木育」を重視。地元の小学生に森で間伐材を使つたキノコの育成などを指導する。背景には地主が多大な維持費に耐えきれず、多くの森が放置されている現状がある。「森が大切にされ、森の持ち主も感謝される社会にしたい」と願う。自身も道内に10畝の森を所有し、時々まきを切りに山に入る。「軽いけどヤニが出るなど、木材にもいろいろな個性があるが、森では平等。見ていると人間の競争社会を忘れられます」

●北海道新聞の記事から



まとめ。そして、あとがき。

明治28年、ニシン漁師であつた私の曾祖父が、森の番人として依頼され、住み着いたのが盤溪の始まりと言われる。桂の大木そびえる原生林に分け入り、予算のない行政と開拓民が丸となって、手づくりで道を作り、山を切り開いて家を建て、農業と山仕事で暮らしを立てながら、学校を建て、どうにか集落の形ができた。

しかし、昭和になつても幹線道路はできず、冬になると峠の山道は雪に閉ざされ、陸の孤島と呼ばれていたこの地に4代目として私は生まれ育つた。

山間農家の冬の暮らしは、山仕事で出稼ぎに行く父の留守を、母や姉達とともに必死に守ることだった。良い薪は金に換え、残つた薪で暖を取り飯を炊き、馬の世話をする毎日。

私は小学5年生になる頃、「自分は出稼ぎに行くのではなく、この地を札幌市民にも役立つ良い場所にして、この地で冬も暮らしを立てられるようにしたい。」そのように考えるようになっていた。私なりの開拓魂の芽生えであつた。



▲妻と私と、祝賀会の看板用のカラマツの板

関連を北海道の特産品にのしあげたい思いなど、まだまだやりたい事がある。こんな私に授けられた勲章の意味は「北海道と人々の為にまだまだがんばれ!」という激励のお言葉なのである。すべては、山と森と自然のおかげさま。ご先祖様のおかげさま。共に汗水たらして働いた仲間達、困つた時に知恵をお借りした先輩方々、各種団体の皆様、そして、妻と家族、よりあげていただいたお客様方みなさんと共にいただいた勲章であるという事を決して忘れてはならないと胸に刻もう。

森羅万象、すべてに感謝の気持ちを込めて。 我慢 嘉明

●我慢さんが出された
「山と森と木と…」あとがきより
(まほろば商店で閲覧出来ます)

